

災害公営住宅の建設地及び規模の概略について

1 趣旨

3月に実施した「住まいに関する意向調査」により、災害公営住宅への入居の希望者が一定数あったことから、災害公営住宅を建設する。

2 建設地及び規模の概略

被災者の早期の入居を実現するために、市有地での建設候補地10か所の中から、「住まいの意向調査」による①入居希望者が多かった地区、②建設地として希望が多かった地区、③建設地として重視するポイントとして多かった観点(日常の買い物の店や病院・福祉施設、銀行・郵便局などの近くにあること)の結果から、地域の意見交換会での意見等も踏まえ、次のとおりとする。

【建設地】

- ・旧栄町医師住宅敷地
- ・比美乃江小学校サブグラウンド

【建設戸数等】

敷地面積や近隣の状況等を勘案して想定

・旧栄町医師住宅敷地	3階建て	21戸程度
・比美乃江小学校サブグラウンド	3階建て	21戸程度
計		42戸程度

【概算事業費】

850,000千円程度 × 2棟 = 1,700,000千円程度

国補助 3/4 (通常の公営住宅建設45/100、一般災害2/3)

公営住宅建設事業債 1/4 (家賃・国補助で償還)

3 その他

- ・旧栄町医師住宅敷地については、建設戸数を確保するため、既存の老朽木造住宅2棟・集会場を解体撤去するほか、一部民有地を買収する必要がある。
- ・整備規模については、今後入居要件に該当する被災者に対して入居の意向確認を行い、入居希望者の数を把握したうえで決定する。なお、この2か所で戸数が不足する場合は、追加で建設地を選定する。